

令和8年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 鹿児島県

農業委員会名： 曾於市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和8年4月1日現在)

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 R5 年 7 月 20 日

任期満了年月日 R8 年 7 月 19 日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	19	19
認定農業者	—	9
認定農業者に準ずる者	—	4
女性	—	2
40代以下	—	2
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	19	19	3

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	2,845
農業経営体数	1,750

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	2,475
女性	1,004
40代以下	269

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	412
基本構想水準到達者	441
認定新規就農者	11
農業参入法人	0
集落営農経営	2
特定農業団体	0
集落営農組織	2

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑				計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	2,410	5,310				7,720

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

II 最適化活動の目標

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)		これまでの集積面積(B)		集積率(B)/(A)	
	7,720	ha	3,182	ha	41.2	%
課題	農業従事者の高齢化、担い手不足等に加え、耕作条件が不利な中山間地の農地については、有害鳥獣被害の増大や資産価値が低いため、未相続農地が解消されない状況であるが、引き続き、農業委員及び農地利用最適化推進委員の掘り起こし活動により、中間管理事業や農業経営基盤強化促進事業等を活用し、担い手への農地の利用集積・集約化を図る必要がある。					

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	R12	年度	集積率	90.0	%
今年度の新規集積面積	153.0	ha	農地面積(C)	7,720	ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	3,335.0	ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)/(C)	43.2	%

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

(2) 遊休農地の解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況			
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積		
		うち黄区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積	
	310	ha	146 ha	164 ha
課題	耕作条件の不利な中山間地の農地については、有害鳥獣被害の増大等により、耕作や不作付地の保全管理が困難な状況となっているため、再生可能な遊休農地は、改善指導、各種施策の実施、集落ぐるみの保全管理活動等により、新たな発生を防止していかなければならない。また、再生困難な土地については、今後も非農地判断の手続きを進めていく必要がある。			

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	18	ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	3.6	ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	160	ha
--------------------------	-----	----

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	地権者を確認し、農業委員・推進委員を中心に地権者と協議し遊休農地解消に向けて工程表を作成する。
-------------------------	---

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	10.5	ha
---------------------------	------	----

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	令和5年度新規参入者		令和6年度新規参入者		令和7年度新規参入者	
	3	経営体	6	経営体	9	経営体
	3	ha	6	ha	9	ha
課題	新規参入については、ほとんどが親元就農であるが、肉用牛生産農家農業従事者の高齢化、担い手不足のため、将来の担い手となる新規就農者の確保・育成及び就農後の定着を図る必要がある。					

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

権利移動面積	平成5年度	令和6年度	令和7年度	平均
	37 ha	32 ha	24 ha	31 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積			3.1 ha	

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	10 日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	19 人
		農地利用最適化推進委員の人数	19 人

(2)活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数	3 回	
取組時期	取組項目	強化月間の内容
R8. 10	①農地の集積	農業委員会リレーションシップ活動(独自の意向調査)
R8. 11	②遊休農地の解消	守るべき農地明確化・非農地・戸別訪問
R9. 1	①農地の集積	話し合い活動・戸別訪問

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数	1 回		
開催時期	R7.6	相談会名	新規就農者を励ます会
参加者数	1	開催場所	曾於市内
相談会の内容	新規就農者への激励		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)